

健康にアイデアを



2025年度 第3四半期 決算説明資料

対象期間：2025.4.1-2025.12.31

2026年2月12日

2025年度 第3四半期 連結決算のハイライト

(億円)	24年度 1-3Q実績	25年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	25年度 通期計画 (11月修正)
売上高	8,750	8,823	+0.8% +73	75.0%	11,770
うち、海外売上高	1,179	1,177	△0.1% △1	74.5%	1,582
営業利益	664	700	+5.4% +36	77.0%	910
営業利益率	7.6%	7.9%	+0.3pt	—	7.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	436	388	△11.0% △48	71.9%	540
E P S	159.38円	143.24円	△16.14円	—	197.80円

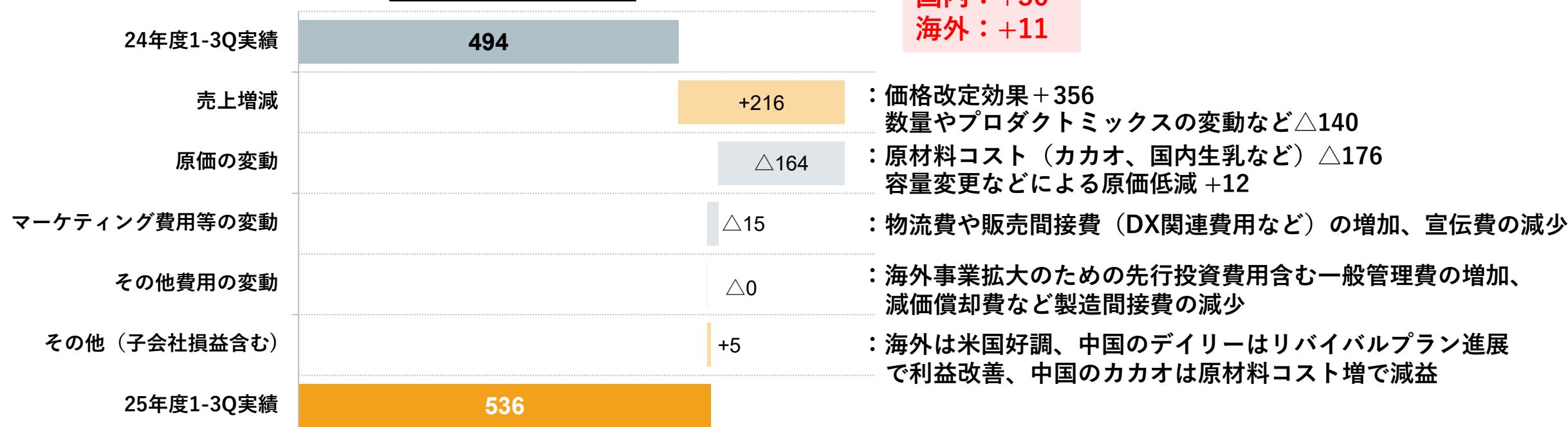
- 売上高は食品增收、医薬品減収。通期計画に対して想定通りの進捗
- 営業利益は食品、医薬品ともに増益。通期計画に対して想定通りの進捗
- 四半期純利益は減益。生産体制変更に伴う減損損失が発生。投資有価証券売却益なども減少

食品：2025年度 第三四半期 決算概要

(億円)

	24年度 1-3Q実績	25年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	25年度 通期計画 (11月修正)
売上高	7,016	7,111	+1.3% +94	76.1%	9,350
営業利益	494	536	+8.4% +41	75.6%	710

営業利益 増減分析

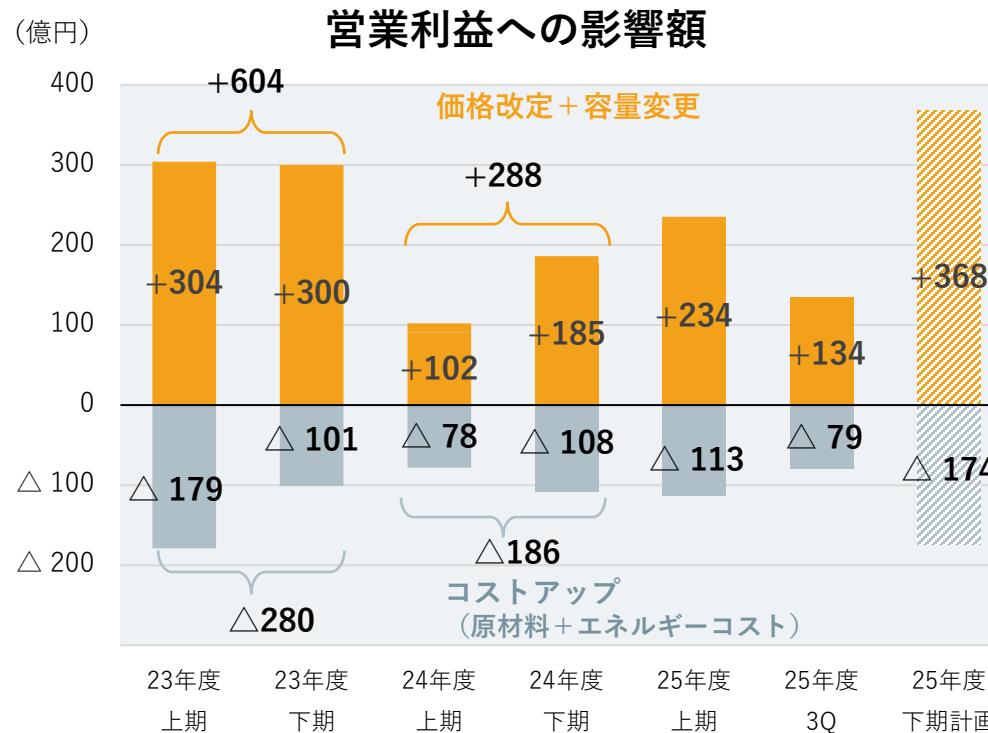


食品：2025年度 第三四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ディリー	カカオ	ニュートリ ション	フード ソリューション	その他
24年度1-3Q営業利益	494	162	113	132	65	21
売上増減	+216	+46	+102	△1	+78	△9
原価の変動	△164	△13	△70	△19	△55	△7
経費等の増減	△15	+9	△10	△0	△9	△5
マーケティング費用等の変動	△15	△1	△12	+2	△8	+3
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△0 (△6)	+9	+1	△2	△1	△8
その他 (子会社損益など)	+5	+7	△8	+3	△1	+4
25年度1-3Q営業利益	536	210	127	115	78	3

食品：コストアップ環境下における利益確保に向けた対策強化

(億円)



25年度の主な価格改定

25年6月	チョコレート ザバス（バー）	+10-36% +8-9%
7月	チーズ バター・マーガリン	+3-4% +3-11%
8月	ヨーグルト 飲料（牛乳ほか） ザバス（ミルク）	+2-17%
9月	アイスクリーム	+5-9%

コストアップの見通し

- 力カオ原料や国内生乳、海外乳原料を中心に原材料コストの上昇は下期も続く
- 足元の力カオ原料相場は下落しているものの、高値圏で確保した在庫の使用が続くため、メリット発現は26年度下期を見込む
- 為替動向やサプライチェーン上のコストアップ（人件費、物流費など）は引き続きリスク要因

- コストアップが長期化する前提に立ち、「価格転嫁」×「付加価値戦略」×「コスト構造最適化」に引き続き取り組む

食品：2025年度 第三四半期 事業概況

■ デイリー事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	2,052	+0.8% +15	2,734	+0.8% +20
うち、国内	2,024	+0.7% +14	2,691	+0.4% +11
海外	27	+3.5% +0	42	+29.2% +9
営業利益	210	+30.0% +48	279	+17.4% +41
うち、国内	232	+19.1% +37	307	+9.3% +26
海外	△21	— +11	△27	— +15

国内主力品の売上高※（億円）

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1-3Q実績	前年同期比	通期計画	前期比
プロバイオティクス	714	+3.1%	938	△1.9%
ヨーグルト	599	+3.1%	789	+3.3%
市販・宅配牛乳	599	+0.2%	788	+1.0%

■ 国内

● 市場（1-3Q）

- ・ ヨーグルト（機能性含む）：+3～4%
- ・ 牛乳：前年並み
- 「R-1」は継続的なプロモーション施策の奏功により伸長
宅配は引き続き課題（市販+6.3%、宅配△2.2%）
- 10月発売の「ヘモグロビンA1c対策ヨーグルト」は
計画を上回って推移
- 「ブルガリアヨーグルト」は主力のプレーンタイプが伸長
- 価格改定効果や製造間接費の減少により増益

■ 海外

- 中国のリバイバルプラン（不採算取引や販売体制見直し）
の進展により営業損失が縮小

食品：2025年度 第三四半期 事業概況

■ 力力才事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	1,373	+8.7% +109	1,771	+3.6% +61
うち、国内	851	+9.6% +74	1,123	+4.7% +50
海外	521	+7.3% +35	648	+1.8% +11
営業利益	127	+12.2% +13	176	+8.2% +13
うち、国内	115	+24.5% +22	162	+19.5% +26
海外	12	△41.3% △8	13	△49.1% △13

国内主力品の売上高※（億円）

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1-3Q実績	前年同期比	通期計画	前期比
チョコレート	867	+9.7%	1,167	+5.8%

■ 国内

● 市場（1-3Q）

- ・ チョコレート：+7～8%
- ・ グミ：+11～12%
- ・ チョコレートは、ミルクチョコレート99周年施策により無垢チョコ好調
- ・ 新商品「生のとき」も計画を上回って推移
- ・ グミは新商品が寄与し増収
- ・ 宣伝費などが増加するも、価格改定効果により増益

■ 海外

- ・ 中国での主力チョコレート群の伸長と、米国でのチョコスナックの販売拡大により増収
- ・ 中国は原材料コストや製造間接費の増加などにより減益
- ・ 米国は増収により増益

食品：2025年度 第三四半期 事業概況

■ ニュートリション事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	924	△2.8% △26	1,176	△1.1% △13
うち、国内	848	△2.0% △17	1,069	△1.8% △19
海外	76	△10.0% △8	106	+5.5% +5
営業利益	115	△13.0% △17	132	△7.3% △10
うち、国内	116	△17.3% △24	135	△12.6% △19
海外	△1	— +7	△3	— +9

国内主力品の売上高※ (億円)

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1-3Q実績	前年同期比	通期計画	前期比
乳幼児ミルク・流動食	514	△5.0%	668	△2.8%
スポーツ栄養	422	+3.1%	519	+0.3%

■ 国内

● 市場 (1-3Q)

- スポーツプロテイン（飲料）：+3～4%
- 乳幼児ミルクはインバウンド縮小により減収
- 「ザバス（粉末）」は販促強化により前年並みを維持
- 「ザバスミルク」は価格改定後も好調を維持
- 原価アップに加え、乳幼児ミルクの減収により減益

■ 海外

● 乳幼児ミルクの輸出が低調

- 前年同期に発生した事業拡大のための先行投資費用の反動により営業損失が縮小

食品：2025年度 第三四半期 事業概況

■ フードソリューション事業

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	1,552	+3.8% +56	2,068	+6.0% +116
うち、国内	1,462	+3.9% +55	1,938	+6.1% +111
海外	90	+1.6% +1	129	+3.8% +4
営業利益	78	+20.5% +13	116	+44.2% +35
うち、国内	106	+11.9% +11	151	+24.9% +30
海外	△27	— +2	△34	— +5

国内主力品の売上高※（億円）

※ (株) 明治単体、収益認識基準適用前実績

	1-3Q実績	前年同期比	通期計画	前期比
BtoB	782	+5.6%	1,019	+3.7%
市販チーズ	215	+4.9%	280	+4.5%
市販アイスクリーム	419	+4.9%	516	+5.0%

■ 国内

- BtoBはクリームやカカオなどが増収
- 市販チーズはカマンベールが好調に推移
- 市販アイスクリームは主力品が伸長
- 物流費などが増加するも、価格改定効果により増益

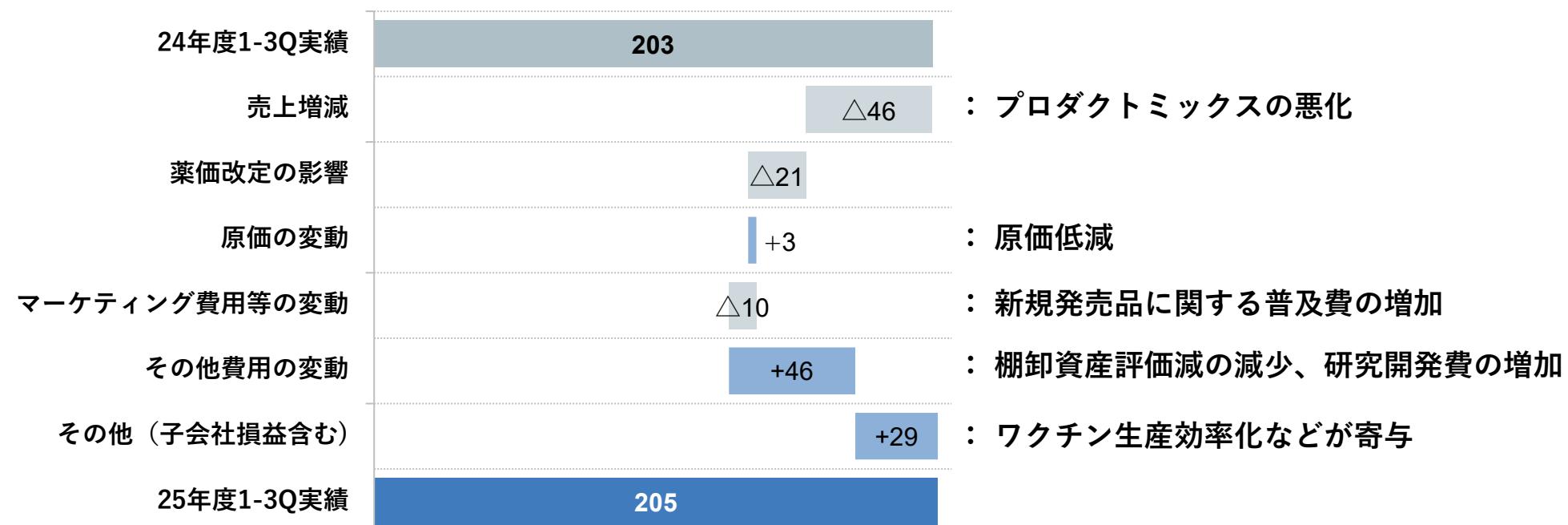
■ 海外

- 中国の業務用クリームや業務用牛乳が増収
- 中国のアイスクリームは競争激化により減収
- コスト削減の取り組みにより営業損失は縮小

医薬品：2025年度 第3四半期 決算概要

(億円)	24年度 1-3Q実績	25年度 1-3Q実績	前年同期比	通期計画 進捗率	25年度 通期計画 (11月修正)
売上高	1,740	1,722	△1.1% △18	70.8%	2,433
営業利益	203	205	+1.1% +2	79.1%	260

営業利益 増減分析



医薬品：2025年度 第3四半期 国内主要領域別概況 (*は収益認識基準適用前売上高)

(億円)

		25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
	感染症領域※1	310	△14.4% △52	458	△6.7% △32
	スルバシリン *	103	△12.0% △14	153	△6.2% △10
	タゾビペ *	68	+2.3% +1	100	+7.6% +7
	マイアクト群 *	36	△36.0% △20	64	△15.5% △11
国内事業	免疫炎症領域※1	233	+30.8% +55	365	+40.6% +105
	血漿分画製剤 *	115	+17.4% +17	165	+28.2% +36
	レズロック *	65	+262.2% +47	89	+208.6% +60
	中枢神経系（CNS）領域※1	152	△11.4% △19	202	△7.4% △16
	ジェネリック医薬品※2	168	+7.0% +10	226	+8.8% +18
ワクチン・ 動物薬事業	ヒト用ワクチン	319	+6.2% +18	419	+10.5% +39
	インフルエンザワクチン *	234	+4.5% +10	211	+1.3% +2
海外事業		465	△5.5% △26	657	+3.1% +19

※1 各領域のジェネリック医薬品含む

※2 各領域に含まれないジェネリック医薬品のみ

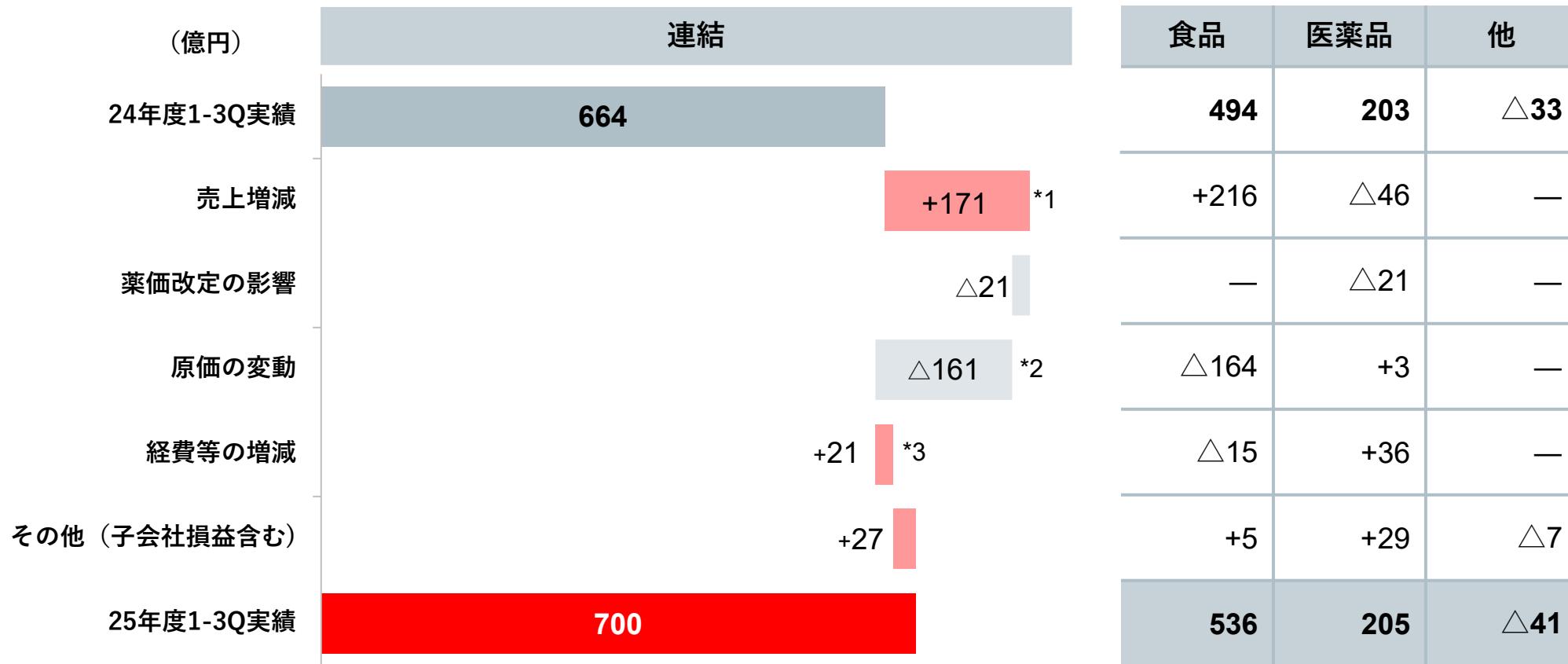
2025年度計画：修正なし

(億円)	24年度 通期実績	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
明治ROESG	9.5pt	8.3pt	△1.2 pt
売上高	11,540	11,770	+2.0% +229
うち、海外売上高	1,531	1,582	+3.3% +50
営業利益	847	910	+7.4% +62
営業利益率	7.3%	7.7%	+0.4 pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	508	540	+6.3% +31
EPS	186.08円	197.80円	+11.71円
1株当たり配当金	100円	105円	+5円

(億円)	24年度 通期実績	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
総還元性向	112.8%	—	—
配当性向	53.7%	53.1%	△0.7 pt
ROE	6.8%	7.0%	+0.2 pt
ROIC	6.8%	7.0%	+0.2 pt
設備投資額	566	1,060	+87.4% +494
営業CF	689	584	△15.2% △105
フリーCF	283	△423	△707

参考資料

2025年度 第3四半期 連結営業利益増減分析



*1： 價格改定効果を含む

*2： 主な内訳 【食品】 原材料コスト増（国内生乳、カカオ原料など）△176
その他（容量変更など）+12

【医薬品】 原価低減+3

*3： 主な内訳 【食品】 マーケティング費用等の変動△15

【医薬品】 マーケティング費用等の変動△10、その他費用の変動+46

食品：2025年度 通期 事業別営業利益 増減分析

(億円)	食品 全体	ディリー	カカオ	ニュートリ ション	フード ソリューション	その他
24年度通期営業利益	646	238	163	142	80	21
売上増減	+299	+53	+117	+15	+118	△4
原価の変動	△200	△15	△85	△27	△66	△7
経費等の増減	△41	△3	△8	△5	△19	△5
マーケティング費用等の変動	△37	△17	△16	+3	△12	+6
その他費用の変動 (内、研究開発費)	△4 (△2)	+14	+8	△8	△7	△11
その他 (子会社損益など)	+6	+7	△10	+6	+2	△0
25年度通期営業利益（計画）	710	279	176	132	116	4

食品：2025年度 第3四半期 海外事業概況

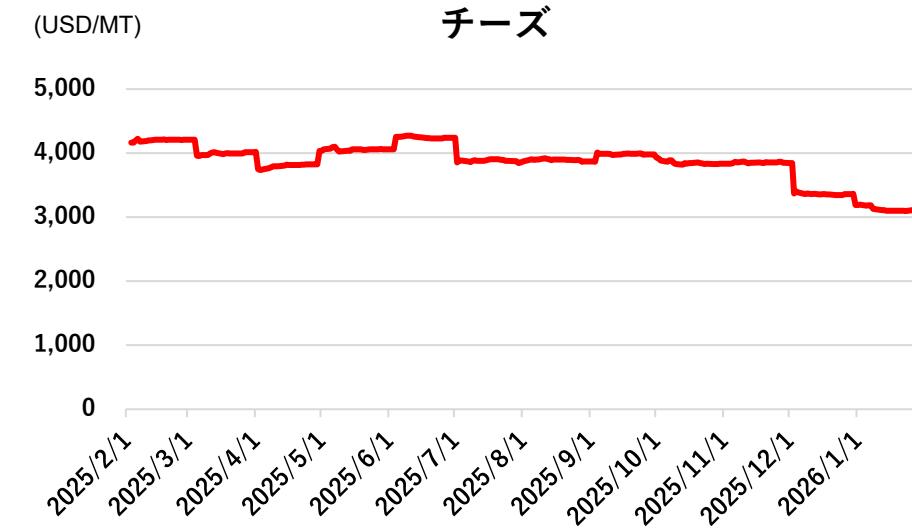
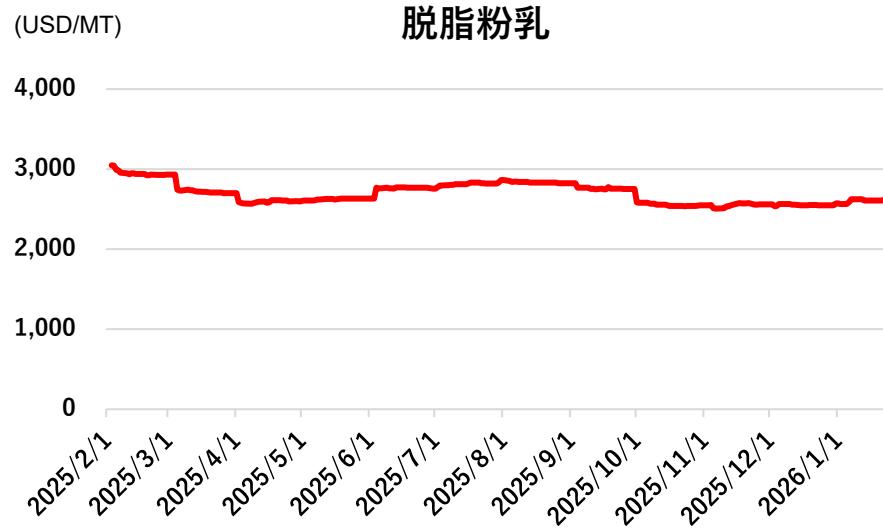
■ 海外事業

		25年度 1-3Q実績	前年同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
中国	売上高	202	+5.9% +11	275	+7.9% +20
	営業利益	△46	— +6	△60	— +10
アジア	売上高	229	△4.0% △9	300	△3.1% △9
	営業利益	12	△31.3% △5	18	+4.5% +0
欧米	売上高	306	+5.6% +16	390	+3.6% +13
	営業利益	17	+38.1% +4	20	+19.3% +3
海外 合計	売上高	712	+3.7% +25	924	+3.5% +30
	営業利益	△40	— +11	△55	— +18

食品：2025年度 第3四半期 海外事業概況（中国）

(億円)	25年度 1-3Q実績	前年 同期比	25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
売上高	202	+5.9% +11	275	+7.9% +20
うち、ディリー	25	+2.8% +0	40	+31.8% +9
カカオ	97	+14.6% +12	119	+9.6% +10
ニュートリション	△0	— △1	△0	— △1
フードソリューション	80	△0.5% △0	115	+1.1% +1
営業利益	△46	— +6	△60	— +10
うち、ディリー	△16	— +11	△20	— +14
カカオ	△4	— △7	△7	— △7
ニュートリション	△1	— +3	△3	— +3
フードソリューション	△23	— △0	△30	— +0

主要輸入原料相場の動向



医薬品：2025年度 第3四半期 事業別概況

■ 国内事業

(億円)	25年度 1-3Q実績		25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
	前年同期比			
売上高	864	△0.7% △5	1,252	+6.4% +75
営業利益	144	△17.6% △30	180	△16.6% △35

- 売上高
 - 24年5月発売「レズロック錠」や血漿分画製剤が伸長するも、抗菌薬が低調に推移し前年並み
- 営業利益
 - 薬価改定の影響などにより大幅減益

■ 海外事業

(億円)	25年度 1-3Q実績		25年度 通期計画 (11月修正)	前期比
	前年同期比			
売上高	465	△5.5% △26	657	+3.1% +19
営業利益	55	+4.5% +2	47	+32.7% +11

- 売上高
 - インドやスペインの子会社が減収
- 営業利益
 - 研究開発費の減少などにより増益

医薬品：2025年度 第3四半期 事業別概況

■ ワクチン・動物薬事業

(億円)	25年度 1-3Q実績		25年度 通期計画 (11月修正)	
	前年同期比		前期比	
売上高	392	+3.7% +14	523	+8.7% +41
営業利益	5	— +30	31	— +36

- 売上高

- 5種混合ワクチンの伸長による增收

- 営業利益

- 前年度発生の棚卸資産評価減の反動やKMバイオロジクスの利益率改善により黒字転換

医薬品：2025年度 第3四半期 事業別営業利益 増減分析

(億円)

	医薬品 全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
24年度1-3Q営業利益	203	175	52	△25
売上増減	△46	△6	△14	△26
薬価改定の影響	△21	△21	—	—
原価の変動	+3	+2	+1	△0
経費等の増減	+36	△10	+18	+28
マーケティング費用等の変動	△10	△6	△0	△3
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+46 (△16)	△4	+18	+32
その他 (子会社損益など)	+29	+4	△3	+28
25年度1-3Q営業利益	205	144	55	5

医薬品：2025年度 通期 事業別営業利益 増減分析

(億円)

	医薬品 全体	国内	海外	ワクチン・動物薬
24年度通期営業利益	247	216	35	△5
売上増減	△2	+24	△13	△13
薬価改定の影響	△32	△32	—	—
原価の変動	+1	+1	+0	△0
経費等の増減	+35	△25	+22	+38
マーケティング費用等の変動	△5	△10	△5	+10
その他費用の変動 (内、研究開発費)	+40 (△11)	△14	+27	+28
その他 (子会社損益など)	+11	△2	+3	+11
25年度通期営業利益（計画）	260	180	47	31

医薬品：開発パイプライン－1

	開発コード名（一般名）	薬効/作用	予定適応症	開発段階
感染症	OP0595* (ナキュバクタム)	β-ラクタマーゼ阻害薬	カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株による各種感染症	申請（日本） Phase III（海外）**
免疫領域	KD-380 (10%液状人免疫グロブリン)	血漿分画製剤	慢性炎症性脱髓性多発根神経炎（CIDP）患者及び多巣性運動ニューロパチー（MMN）患者の急性期治療、維持療法	Phase III（日本）
	KD-416* (血液凝固第X因子製剤)	血漿分画製剤	血液凝固第X因子欠乏症患者の出血傾向の抑制	Phase III（日本）
新領域	ME3208 (ベルモスジル)	ROCK2阻害剤	慢性移植片対宿主病(cGVHD)治療薬	発売（日本）：製品名 レズロック錠200mg (2024年5月22日発売) 発売（韓国）：製品名 REZUROCK Tablets (2024年11月発売) 承認（台湾・タイ）
	DMB-3115 (ウステキヌマブ後続品)	バイオ後続品	尋常性乾癬/関節症性乾癬/クローン病 /潰瘍性大腸炎	発売：（欧州・米国・中東）製品名IMULDOSA (2025年1月以降順次発売) 承認（中東・欧州） 申請（海外） Phase I（日本）
	HBI-8000 (ツシジノスタット)	ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害剤	切除不能または転移性悪性黒色腫治療薬	Phase III（日本・海外）**
	ME3183*	PDE4阻害剤	乾癬治療薬	Phase II（海外） (市場環境を踏まえて開発計画を再検討中)
	HBI-8000 (ツシジノスタット)	ヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害剤	再発・難治性B細胞性非ホジキンリンパ腫治療薬	Phase Ib / II（日本）**

*自社創製

**国際共同治験

医薬品：開発パイプライン－2

開発コード名	薬効/作用	予定適応症	開発段階
コスタイペ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防 (レブリコンワクチン)、2人用バイアル製剤	発売（日本）（18歳以上）
コスタイペ筋注用	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防 (レブリコンワクチン)	Phase III（12～17歳）（日本）
KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防 (成人・不活化ワクチン：起源株)	Phase III（18～40歳）**（日本）
KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防 (小児・不活化ワクチン：起源株)	Phase III（6か月～11歳）（日本）
KD-414	ワクチン	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の予防 (小児・不活化ワクチン：オミクロン株)	Phase III（6か月～12歳）（日本）
KD2-396	ワクチン	百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘルモフィルスインフルエンザ菌b型、B型肝炎ウイルスによる感染症の予防（6種混合ワクチン）	Phase II（日本）
KD-382	ワクチン	デング熱の予防（4価弱毒生ワクチン）	Phase II（海外）

*自社創製

**国際共同治験

医薬品：開発パイプライン－3

	開発コード名	薬効/作用	開発段階
動物 薬	KD-412*	ワクチン（牛）	発売（日本）：製品名ボビサントアカバネ (2025年10月1日発売)
	MD-22-3002	抗炎症剤（牛、豚、馬）	発売（日本）：製品名フルニキシン注「meiji」 (2026年1月6日発売)
	ME4305*	抗菌性製剤（牛）	申請（日本）
	MD-22-1001-1	抗菌性注射剤（牛）	開発中
	ME4406*	飼料添加物	開発中

*自社創製

健康にアイデアを

meiji

- ・本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- ・本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- ・本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。